博士論文要旨

サウジアラビア王国による脱急進化政策：穏健的イスラーム解釈の追求（1979-2020）

立命館大学大学院国際関係研究科
国際関係学専攻博士課程後期課程
アルマイマン アナス アブドラハマンエ
ALMIMAN Anas Abdulrahman A

1979 年以降、サウジアラビアで宗教運動間の静かな対立が続く中、一部の過激派が宗教的プラットフォームを利用して、イスラームの宗教的景観の再構築を企ててきた。過激派は、イスラーム・プラットフォームを搾取することで、サウジアラビアの国家安全保障に影響を及ぼすに至ってきた。そうした状況下で、2017 年には、サウジアラビアのムハメド・ビン・サルマン皇太子が、イスラームに内包される共存と寛容を訴え、サウジアラビアの開放性を世界に提示した。サウジアラビアでは、宗教の教えに基づいていると主張する様々なイスラーム解釈が流通するようになっており、その中には過激派を助長する性格をもつものもあった。しかし、ここ数十年、サウジアラビアは新たな手段、新たな戦略による過激派の弱体化を試みており、本論文ではその成果を新たな視角から分析する。

具体的には、本論文では、3 つの側面に焦点を当てている。第一に、イスラーム・プラットフォームがサウジアラビアの国家安全保障に与える影響である。その意義は、イスラーム・プラットフォームの在り方を深く観察し、その利用、影響、言説がサウジアラビアの国家安全保障にもたらす結果を論じることにある。ここでは、サウジアラビアにおいて過激派思想を広めるためにイスラーム・プラットフォームが利用されている現状を考察し、加えてイスラームの教えに基づく平和構築に貢献したサウジアラビアの反過激派政策について概説する。

第二に、記述分析的手法を通して、サウジアラビアにおけるイスラームの「知的安全保障」概念とその重要性を論及している。また、イスラームの知的安全保障の浸透という予防策がサウジアラビアにおける過激派の弱体化に果たす潜在的な効果・役割を説明し、イスラームの「知的安全保障」を用いた過激派思想の波及の予防と過激派の弱体化を結びつける様々な要因を明らかにする。

最後に、サウジアラビア政府のビジョンに従って、イスラームの穏健な教義を提示することによって過激派と戦うことが、脱民主化の方法として成功している現状を提示する。ここでは、イスラムの過激派様式がどのように出現し、その傾向や信条をどのように説明したのかという問題を扱っている。ここでは、サウジアラビア政府が過激派と戦うために適用している脱過激派戦略について検討し、サウジアラビアの上級イスラーム学者評議会（サウジアラビアの最高宗教顧問機関）が果たす重要な役割について詳説する。